

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400900		
法人名	有限会社 アップウェル		
事業所名	グループホームたくひの里 1ユニット		
所在地	島根県出雲市大津町3645		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりが強く、神社の祭りに参加したり、ホームのお祭りに参加していただいたりや交流がある。とんどさんでは土地を提供しており、地域の皆様と一緒に利用者も参加されている。職員は利用者一人ひとりの思いを大切に発言や表情からくみとり、生き活きと過ごしていただけるよう配慮を行っている。また職員も、利用者と生活を共にする思いで生き活きと働いている。毎週金曜日にこられるボランティアグループとは開所後すぐからの長年のお付き合いになっており、ホームや利用者のことをよく理解しておられ、代表者が運営推進会議にも参加してくださっている。利用者、ご家族はもちろん職員も意見を言いやすいような雰囲気づくりを心がけており、そのつど意見をお聞きするようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の交代を機に、ホームがどうあってほしいか、そのためにどうしたらいいかを職員全員で話し合い、具体的な目標を挙げて「和気藹々とした居場所」作りに取り組んでいる。利用者は部屋でお茶をたてたり談笑したり、ゲームをしたり、自由にユニット間を行き来し合家でティータイムや体操を楽しんでいて、職員も利用者を理解して穏やかに接している。地元記念館の漫画コンクールへの出品、ボランティアとの交流など開設時から継続して行い、地域の人の理解と協力を得ながら、代表者、管理者、職員が一丸となって利用者主体の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、管理者、職員ともに理解し地域との関わりを大切にしながら、笑顔で過ごしていただけるよう心に留めて実践している。	今年度、全職員で理念に沿って具体的な目標を挙げ、実践状況を振り返りながら「住む人、訪れる人がほっとする居場所」作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り、とんどさんなどの地域行事の参加や地元のボランティアグループ、保育園、小学生との長年にわたる交流を続けている。	行事への参加やボランティア、園児や小学生との交流、散髪のはりは店の人が送ってくれたり、地元の漫画コンクールに毎年出品するなど、日常的に地域の人と関わり、共に利用者を支える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方々が多く来所される中で実践内容を紹介している。認知症サポーター養成研修にも参加しており、今後地域に向けて活動を広げたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に一回の運営推進会議を実施し、取り組みを報告して頂いた意見を全職員が受け止め、早いうちに実践に活かしている。	退去した利用者の家族や、ボランティア代表の参加もある。避難訓練や看取り、感染症などその時々で話し合い、情報交換や意見交換を行い、出された意見をサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者や知的障害者の利用もあるため、管理者が市の担当者と密に連絡を取り、サービス内容を伝えて相談したり、協力を得たりしている。	日頃からこまめに連絡を取り合い、利用者の状況に合わせて制度上の手続きの相談をしたり感染症の対応など助言や協力を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加した職員が、全職員に対して勉強会を開いて意識の向上を図り、拘束しないケアについて確認し合いながら取り組んでいる。	権利擁護の研修に参加した職員が自施設内研修を行い、職員にアンケートを実施して言葉使いなどケアの振り返りを行い意識的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修で学ぶ機会を設けて、言葉遣いや対応に十分気をつけるとともに、些細なことの見逃さないよう日々注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じてご家族など関係者と話し合い、その後専門機関にご指導を受けながら活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前から利用者やご家族と数回面会し、不安や疑問点をお聞きしている。契約時にはさらに詳しく説明し十分な理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の便りで意見や要望をいただけるよう声をかけるとともに、来所時や運営推進会議の際に無理なく言っていただける機会を設けるようにしている。	家族の訪問時に意見を聞いたり、家族会、行事への参加を通し家族同士が交流する場を持ち意見を聞く機会を作っている。利用者の声を家族を通して聞き、個別な対応に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の朝礼での申し送りや会議で職員の意見を必ず聞くようにしている。さらにいつでも意見を言えるような雰囲気づくりを心がけている。	管理者は申し送りで情報を共有し、日々職員が今何に困っているかなど聞くことに努めている。代表者、管理者は職員の意見を尊重し、チームとしての取り組みを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加や資格試験への挑戦に意欲が持てるよう後押しされている。個人の事情に合わせてその都度勤務条件も見直しされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や力量に合わせた研修への参加や、講師を招いてのホーム内研修を行い、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での交流や事例検討会に参加したり、研修等でのつながりからネットワーク作りをしている。今後はさらに相互訪問をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からその都度、不安なこと疑問、要望などをお聞きし、また表情や仕草なども観察しながら早期に安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を考えながら、ご家族にも困っていることや要望等なんでも言って頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と充分話し、まず何を必要とされているか、どこまで支援できるか等見極め、他のサービス利用も考慮しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の出来ることは自分でしていただく中で一緒に作業をしたり、お手伝いしたり、時には教えて頂くこともある。共に暮らす関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会に来られる方が多く、その都度ご本人の様子をお話している。受診や外出に連れて行かれたり、情報交換しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を継続されたり、知人の方の面会や入居前に所属されていた会に誘われたりしている。手紙のやり取りもされている。	祭りや行きつけの美容院に行ったり、婦人会や公民館のサークルの人との交流、在宅の時見守りをしてくれた人の面会など、これまで関わりのあった人との関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握してテーブルや席の配置を工夫している。時には職員が仲立ちとなりながら良い関係を保てる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も訪問して下さるご家族があり、何年も交流が続いている。必要に応じて相談、援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、仕草などから本人の意向を汲み取れるようにし、職員目線にならないよう日々検討している。困難な場合は家族の意見もお聞きしている。	利用者やゆっくり話す時間をもち、表情やしぐさなどから思いを把握している。言葉で伝えられない人は家族から情報を得て安心してもらえる声かけや好きな花札をするなど、笑顔に繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しく生活歴等お聞きした上に、生活していく中から新たに見えてきたことも情報共有して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックを欠かさず、体調などの変化に気づき、記録や申し送りをして一人一人の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がモニタリングを行い、本人やご家族と話し合って現状を理解するとともにこまめにケア会議を行って介護計画を作成している。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いを聞き、ニーズにあった個別なプランを作成している。利用者の様子や変化を常に話し合い、実情に即したプランに変更し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録に記入し情報の共有に活かしている。大事なことはすぐ朝礼や会議で話し合いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の決め付けや考えで動かないように、ご本人、ご家族の現況やニーズに合わせて柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の神社のお祭りや、記念館主催の漫画コンクールへの毎年の出品など、地域活動への参加を通して豊かな暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族の意向をお聞きしてかかりつけ医の継続を支援したり、適切な医療機関で医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医の受診を支援し、緊急時や終末期も適切な医療が受けられる体制がとられている。往診の希望が増えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の常勤看護師や訪問看護師に日々の状況を相談し、指導が受けられるようになっている。状態を把握して適切な受診や看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には病院へ足を運び、情報交換や相談に努めている。日ごろから病院関係者との話しやすい関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し重度化した場合の同意確認していただくとともに、時期を見ながら、本人、家族、かかりつけ医らと話し合いを行い、方針を共有。チーム一丸となって支援している。	家族、医師、関係者が話し合いを重ねて方針を共有し、今年度初めて3人の看取りの支援を行った。職員の緊急時の不安に対し家族は理解と感謝の気持ちで応え全職員で取り組むことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年数の浅い職員は応急手当や初期対応の訓練を受けていないものもあり、定期的に行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害の想定で避難訓練を定期的に行っている。夜間の想定で、夜勤者が動きを身につけられるよう設定した訓練も行っている。	年2回避難訓練を行い、地域の人にも参加してもらっている。夜間を想定した訓練や設備の定期点検、マニュアル整備など行い意識づけに努めている。	定期的な訓練は実施されているが、利用者と共に日常的に意識付けができるような取り組みが増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて対応し、ケアの中で自尊心やプライバシーを損ねないよう日々職員間で確認しあったり会議で話し合っている。	日頃から制止の言葉や「〇〇してください」はどうか話し合い、声のトーンにも気をつけている。自室で囲碁のゲームを楽しむ人もあり、利用者を理解して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問や声のかけ方を工夫したり、意見が言いやすいよう信頼関係づくりに努め、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、習慣などペースに合わせて行動し、事前に本人の希望確認をようしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪やヘアピン利用などでの整髪、季節や好みに合わせた服と一緒に選ぶなどしており、行事の時など自ら化粧や着替えを希望される方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立書きやテーブルふきを日課にされたり、おやつ作りを楽しみにされている。バイキングや食事会を開き、好きな物を自分で取って食べれる楽しさもあじわってもらっている。	感染症対策から現在は外部委託をしているが、果物や椿の葉を添えたり、硬いものは柔らかくし直すなど細やかな配慮をしている。献立書きやテーブル拭き、おやつ作りなどできることを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や固さなど毎回確認行い、一人ひとりの状態に合わせた工夫をしている。好みの飲み物を複数準備して水分摂取量が増えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて口腔ケアの声掛けや支援を行い、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握して、声掛けや介助を行い、状態にあったパッドの調整により汚染枚数を減らす支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムや特徴を把握し声をかけて支援している。利用者の身体状況に合わせパットを工夫したり、夜だけポータブルトイレを使用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、お茶寒天、ヤクルト、ヨーグルトなど状態にあった飲み物を試しながらすすめている。体操も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前にご本人の希望を伺いやなときには無理強いせず柔軟に対応している。気が向かないときには清拭や足浴の支援も行っている。	利用者のその日の希望を確認し、湯温や時間など一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。気が向かない時には清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調、気温や天候などにも留意しながら安心して気持ちよく眠れる環境づくりをし、配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰もが一目でわかるように薬を一覧表にしている。処方に変更がある際には記録や申し送りをして訂正、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの馴染みのあることや得意なこと、好きなことを考慮した役割を提供し、環境、材料等の準備を行って生き生きと楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人や家族の意向を聞きながら外出を計画していきたいところへ出かけられるよう支援しているが、以前より減ってきており、もっと増やせるように方法を模索中である。	散歩や買い物、野菜作りや水やり、日光浴など外気に触れる機会を作っている。計画的に出かける機会を作り家族の協力も得ている。1ユニットでは今より外出の機会を増やしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じて、自分で財布を持って買い物にいかれたり、外食の支払いをされたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときにはかけてもらったり取次ぎをしている。仲の良い知人や、家族と年賀状や手紙、はがきのやりとりをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い室温調整や換気もこまめにおこなっている。フロア(居間兼食堂)には花を生けたり、季節の壁飾りや写真を掲示して、生活感を感じながらゆったりと過ごしていただいている。	季節感のある落ち着いた環境作りをしている。両ユニットにある階段は段差が緩やかで上がり降りしやすく安全面にも配慮されている。広い空間はどの場所も暖かい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや席の配置を工夫し、状況に合わせて思い思いにくつろいでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れたものを持ち込まれている。ベッド利用の方も畳を敷かれている方もおられる。	本棚、タンス、家族写真、花など利用者や家族の思いで自由に持ち込んでもらい、その人にあわせた居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段を利用される方も増えたが、段差が緩やかで滑り止めもあり安全に昇降されている。標示やシールを使用して安全にわかりやすく過ごしていただく支援をしている。		